

# 早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターにおけるオリンピック・パラリンピック教育の取り組み: 教員セミナー・ワークショップおよび市民フォーラムの事業を中心に

A report of Olympic & Paralympic education in WASEDA Research Center for Olympic & Paralympic Education: Focusing on the seminar & workshop for teacher and the citizen forum

友添秀則<sup>1)</sup>, 深見英一郎<sup>2)</sup>, 吉永武史<sup>3)</sup>, 岡田悠佑<sup>4)</sup>, 根本想<sup>5)</sup>, 竹村瑞穂<sup>6)</sup>,  
小野雄大<sup>7)</sup>, 青木彩菜<sup>8)</sup>, 鈴木康介<sup>9)</sup>

1), 2), 3), 4), 7), 8) 早稲田大学スポーツ科学学術院

5) 早稲田大学スポーツ科学研究センター

6) 日本福祉大学スポーツ科学部

9) 中部学院大学スポーツ健康科学部

Hidenori Tomozoe<sup>1)</sup>, Eiichiro Fukami<sup>2)</sup>, Takeshi Yoshinaga<sup>3)</sup>, Yusuke Okada<sup>4)</sup>,  
So Nemoto<sup>5)</sup>, Mizuho Takemura<sup>6)</sup>, Yuta Ono<sup>7)</sup>, Ayana Aoki<sup>8)</sup>, Kosuke Suzuki<sup>9)</sup>

1), 2), 3), 4), 7), 8) Faculty of Sport Sciences, Waseda University

5) Waseda Institute for Sport Sciences

6) Faculty of Sport Sciences, Nihon Fukushi University

9) Faculty of Sports and Health Science, Chubu Gakuin University

キーワード: スポーツ庁, オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業,  
オリンピック, パラリンピアン

Key words: JAPAN SPORTS AGENCY, Olympic & Paralympic Empowerment,  
Olympian, Paralympian

## 【抄 録】

スポーツ庁が推進する「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」(以下、「オリ・パラ事業」)の委託を受けて、2016(平成28)年7月29日付で早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター(WASEDA ROPE:WASEDA Research Center for Olympic & Paralympic Education;以下、「早大オリ・パラセンター」)が発足した。平成28年度における早大オリ・パラセンターは、岩手県、広島県、熊本県の各教育委員会および各学校と連携して事業をすすめた。

そこで、本稿では、早大オリ・パラセンターの平成28年度に行った事業を紹介することを目的とした。日本では、これまで東京(1964年)、札幌(1972年)、長野(1998年)と計3回(夏季1回、冬季2回)のオリンピック大会、また、札幌を除く計2回(夏季1回、冬季1回)のパラリンピック大会を開催している。そして、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会は、夏季大会としては、前回の東京大会以来、56年ぶりの自国開催となる。本稿において、研究資料という形で、早大オリ・パラセンターの事業を報告することは、2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会開催に向けたわが国のオリンピック・パラリンピック教育の展開を振り返る際の貴重な資料となる点に意義があると考えた。なお、早大オリ・パラセンターの事業は、授業場面と授業場面以外の事業に大別でき、本稿では、特に授業場面以外の事業を中心に記述した。

具体的には、①オリ・パラ教育普及のための組織づくり、②教員セミナー・ワークショップの開催、③市民フォーラムの開催の3点について詳細に紹介した。